

“軍事・戦争ある国”反対!



正月から日米軍事一体化・日米共同訓練が

習志野基地でおこなわれている

年末の仕事納めの直前ドサクサ紛れに日本政府は“中東へ自衛隊を派遣する”ことを閣議決定した(2019年12/27)。

一週間がたたぬ2020年1月3日には米軍がイランのソレイマニ司令官をイラクの領内で無人機ドローンで暗殺するというとんでもない事態をひきおこしました。それに報復するイランからの米軍基地へのロケット攻撃と非常に厳しい状況になっている中、日本政府は1月11日には『自衛隊派遣の法的根拠』がまったくないのに対潜哨戒機P3Cを中東の海に送り出しました。自衛隊の中東派兵に反対する市民が7日には米国大使館前、首相官邸前で8日には新宿の駅前広場で米国の暗殺行動を批判、“戦争反対”“中東への自衛隊派兵反対”の声をあげたのにもかかわらずです。

1月12日には恒例の習志野空挺団の落下傘訓練・新年の出初式。入間から下総基地によって習志野へとC-1やC-130などで部隊が移送されます。今年は横田基地の米空軍も参加。米本土からはアラスカ、ノースカロライナの戦闘部隊まで参加。日米軍事一体化・日米合同訓練が正月から行われる日本になってしまいました(4年前から毎年拡充され)。1/10には12日の落下傘訓練のリハーサル中誤って習志野高校のグラウンドに降りてしまう事故も発生しています。



津田沼駅前では市民が“降下訓練始めに抗議するリレートーク&デモ”を行いました(1月12日)。“沖縄高江のヘリパット反対”の住民からのメッセージや、“横田基地反対・オスプレイ反対”“習志野基地へのPAC3配備反対”と平和を希求し住民運動をしている市民からのアピールが続きました。メッセでの武器見本市開催に反対する“安保関連法制に反対するママの会@千葉”からも「誰の子どもも殺させない!」との訴えがなされました。“木更津オスプレイ暫定配備に反対する会”の会長からは「木更津も、佐賀にも、習志野にも、横田にも、沖縄にもオスプレイはいらない」との思いが訴えられました。

習志野空挺団は陸自の導入するオスプレイ17機(オスプレイ部隊)と一緒に行動をすることが明らかになっています(防衛省の説明)。オートローテーション機能もない墜落する危険なオスプレイ、低周波騒音も発生するうるさいオスプレイはいりません。

平時からの日米軍事一体化の象徴オスプレイを米国に追い返しましょう。

習志野を、木更津をそして千葉県をオスプレイの一大軍事拠点にはいけません。反対の声を上げていきましょう。

“民主主義と自治そして平和主義” ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告をホームページに掲載「いい鎌ヶ谷 ふじしろ政夫」でアクセスできます。